

万博公園探鳥会 06年度の記録

(06年4月～07年3月)
2007年3月31日

万博探鳥会06年度実績

06年度探鳥会全データ

06年度観察回数

06年度探鳥会コメント

06年度月別観察種数

・参加者数

01年～06年の推移

22年前との比較



マヒワ

(10年ぶりに姿を見せた冬鳥)

集約 吹田野鳥の会 / 日本野鳥の会大阪支部
協力 (独)日本万国博覧会記念機構

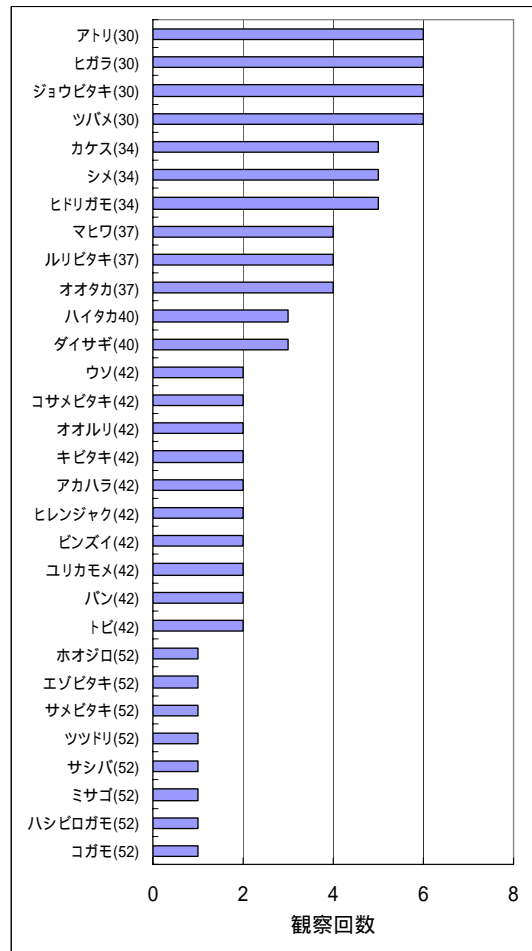
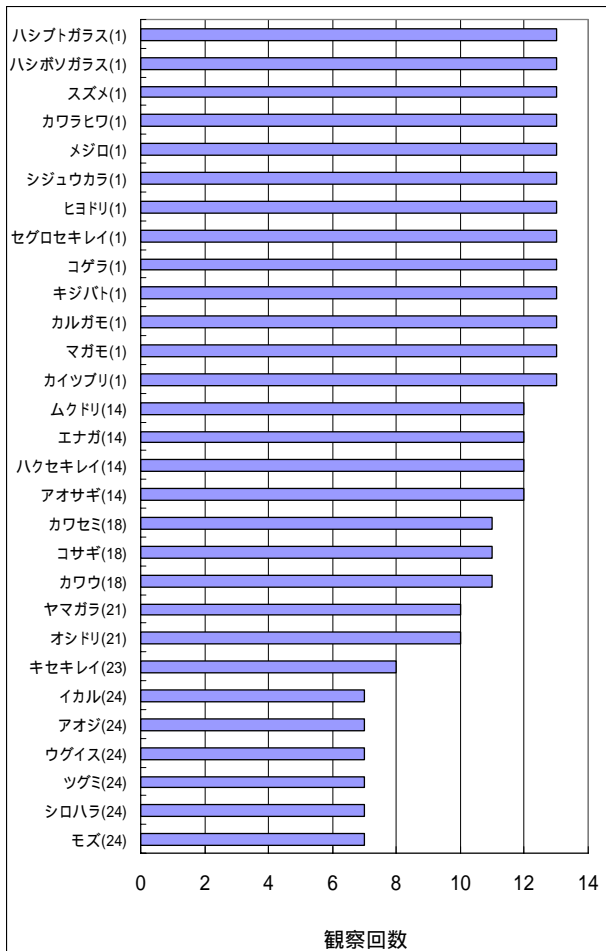
万博探鳥会 06 年度実績

- ・主催 (財)日本野鳥の会大阪支部
- ・定例開催日 毎月第2土曜日
9:30 自然文化園中央口集合
15:00 頃日本庭園東側で終了解散
- ・探鳥会回数 13回
基本的には月1回。
11月のみバードウォッチング・ウィーク探鳥会
(11/3)実施のため月2回開催。
- ・探鳥会で観察した鳥 59種(05年57種)
毎回の観察種 22~40種
年平均 31種/回(05年29種)
- ・探鳥会参加者数 771人(05年856人)
毎回の参加者 19人~109人
年平均 59人/回(05年66人)

06年度探鳥会全データ

	06年												07年			観察回数
	4	5	6	7	8	9	10	11	11	12	1	2	3			
	8	13	10	8	12	9	14	3	11	9	13	10	10			
1	カイツブリ	9		4		4	1	4	4	2	2	1	3	13		
2	カワウ	9		1		1	1			1	1	4	3	11		
3	ダイサギ					2	2		1					3		
4	コサギ	1		1		1	2			1	1	1	2	11		
5	アオサギ	2		1		1	1	1	2	3	2		1	12		
6	オシドリ	1		1		1	1	1		3	1	2	2	10		
7	マガモ	5		4		1	1	9	11	9	15	6	14	13		
8	カルガモ	7		10		14	10	5	17	12	24	18	31	13		
9	コガモ										2			1		
10	ヒドリガモ							2			2	17	22	5		
11	ハシビロガモ												1	1		
12	ミサゴ													1		
13	トビ	1												2		
14	オオタカ						1		2		1	2		4		
15	ハイタカ	1									1	1		3		
16	サシバ	2												1		
17	バン			3										2		
18	コリカモメ										2	8		2		
19	キジバト	5		2		2	3	4	6	1	1	2	10	13		
20	ツツドリ						1							1		
21	カワセミ			1		3	2	2		2	2	3	2	11		
22	コゲラ	4		5		1	2	2	2	3	3	1	1	13		
23	ツバメ	11		17		1	1							6		
24	キセキレイ						2	2	3	2	2	2	1	8		
25	ハクセキレイ	6		2		2	1	12	13	36	24	6	7	12		
26	セグロセキレイ	1		4		4	4	4	5	8	4	2	4	13		
27	ビンズイ								3		3			2		
28	ヒヨドリ	19		8		9	8	32	51	56	74	23	63	13		
29	モズ							1	3	1	2	3	1	7		
30	ヒレンジャク	8											2	2		
31	ルリビタキ									1	3	1	1	4		
32	ジョウビタキ								3	3	2	2	2	6		
33	アカハラ	1												2		
34	シロハラ	2							3	3	4	3	3	7		
35	ツグミ	10							11	79	119	11	17	7		
36	ウグイス	1							1	1	3	1	1	7		
37	キビタキ			1				2						2		
38	オオルリ	1						1						2		
39	サメビタキ							1						1		
40	エソビタキ							5						1		
41	コサメビタキ					2	1	1						2		
42	エナガ	3		10		2		10	6	10	1	12	3	12		
43	ヒガラ								5	8	3	4	3	6		
44	ヤマガラ	3					13	4	8	8	4	8	4	10		
45	シジュウカラ	7		32		7	9	10	9	15	9	8	14	13		
46	メジロ	7		16		21	8	10	13	8	7	4	12	13		
47	ホオジロ								1					1		
48	アオジ	1							4	2	6	3	3	7		
49	アトリ								10	8	197	17	37	6		
50	カワラヒワ	34		13		6	3	9	16	112	66	39	41	13		
51	マヒワ								2		12		2	4		
52	ウソ												1	2		
53	イカル	4						4	2	1		2	2	7		
54	シメ	1									3	2	1	5		
55	スズメ	24		38		43	17	13	25	26	167	26	114	13		
56	ムクドリ	19		84		7	16	3	55	56	43		19	12		
57	カケス							12	2	1	2	2		5		
58	ハシボソガラス	15		13		11	12	13	17	75	32	16	8	13		
59	ハシブトガラス	11		8		18	8	55	22	19	20	6	27	13		
種数計		34	22	24	23	22	27	30	34	32	40	37	40	59		
個体数計(羽)		236		279		161	132	234	338	572	871	271	486	3896		
天候		曇後晴	雨	晴	曇	晴	晴	晴	晴	小雨	雨後曇	晴	曇	晴		
参加者数		98	19	63	39	33	59	70	46	24	21	109	102	771		

06年度探鳥会での観察回数



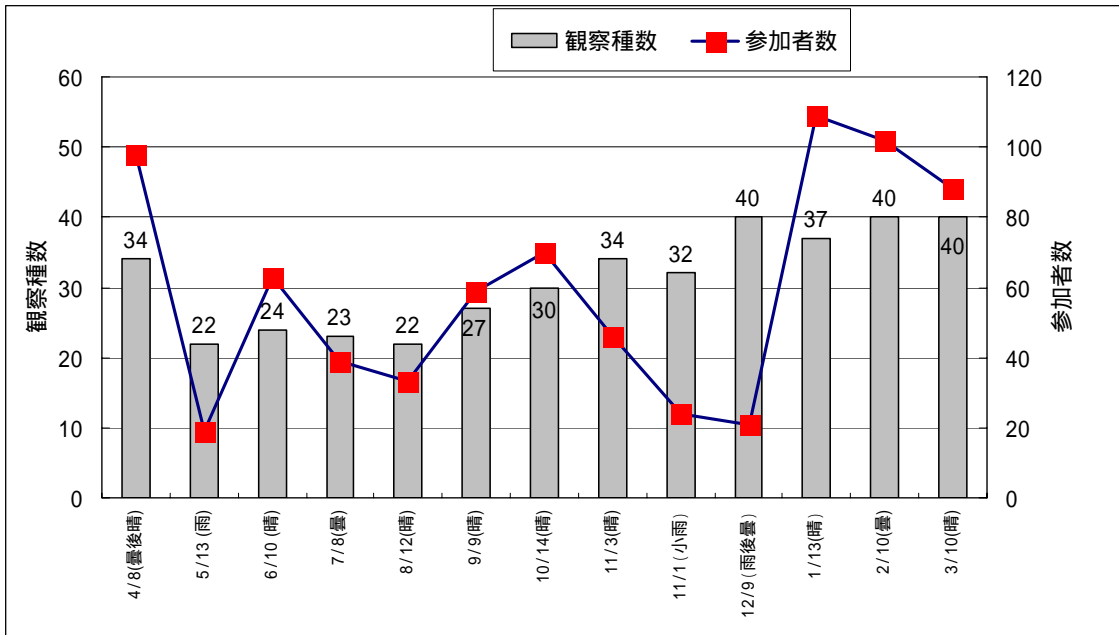
06年度の探鳥会では59種を観察した。今年の特徴は冬鳥が昨年に比し非常に多かったことで、特にマヒワは03年に1回観察しているものの、今年のように冬の間毎月(12月~3月)観察できたのは97年以来、10年ぶりのことである。

尚、春の渡り鳥調査で4月15日~5月5日まで毎日確認できたマミチャジナイが、定例探鳥会では観察できないまま終わった。1ヶ月近く多数のマミチャジナイが生息していても、毎月1回の探鳥会で観察できない種のあることがわかった。

06年度探鳥会コメント

月/日	天候	観察 種数	参加 者数	コメント
4/8 5/13 6/10	曇後 晴 雨 晴	34 22 24	98 19 63	<p>(4月)エナガの巣作り、シジュウカラ・ヤマガラ・コゲラなど留鳥たちの歌、そして今年少なかったツグミ・シロハラなどの冬鳥を観察することができた。88年以來18年ぶりに探鳥会でのサシバの春の渡り、そしてオオルリ、ヒレンジャクの群など、鳥の春がすぐそこまで来ていることを実感した。</p> <p>(5月)雨予報確率90%の中で19名もの参加があり、スタート時小降りになったことから実施した。昨日まで、マミチャジナイ・キビタキがいたとの情報があったものの雨で見つからなかった。しかしカワセミ・オシドリや、万博公園内で繁殖している鳥を中心に22種観察することができた。</p> <p>(6月)今日のトピックスはキビタキのさえずり、昨年吹田市内で繁殖したので、より条件の良い万博公園での繁殖を期待していたが、ついに実現したと思われる(但し、その後繁殖は確認できず)。</p>
7/8 8/12 9/9	曇 晴 晴	23 22 27	39 33 59	<p>(7月)梅雨の晴れ間の蒸し暑い一日、鳥の声をバックグラウンドに、ごみ拾いをしながら木陰を選んで歩いた。スズメ・ムクドリ・シジュウカラなどの幼鳥、カイツブリのヒナ、そして人気者のカワセミなど、思いの他多い23種が確認できた。</p> <p>(8月)地上に座ってアリの口にくわえて自分の背中に乗せる、いわゆる「蟻浴」行動、真下に多数の人がいても逃げないで、色づき始めたばかりのエノキの実を食べるのに夢中の群など、カラスの珍しい行動2態が観察できた。</p> <p>(9月)残暑厳しい一日、期待していた秋の渡り鳥はコサメビタキとカッコウSP(ツツドリ?)のみでした。自然文化園心字池でオシドリ が越夏したが、羽を痛めているためとわかった。</p>
10/14 11/3 11/14 12/9	晴 晴 小雨 雨後曇	30 34 32 40	70 46 24 21	<p>(10月)秋の渡り鳥は常連のコサメビタキは少なかったが、エゾビタキ・サメビタキはゆっくり観察でき、また10羽以上のカケスも飛んだ。</p> <p>(11月BWW)数年ぶりのヒガラ・マヒワ・ホオジロを確認し、例年より早くピンズイ・ツグミ・シロハラなどもいて、バードウォッチング・ウィークにふさわしく、多くの冬鳥を楽しむことができた。</p> <p>(11月定例)ツグミ30~40羽の群が2回上空を飛び、人気の少ない芝生広場でハクセキレイが多く、松の実に集まるとヒガラ、アキニレにはアトリなど、雨のなかで鳥たちが数多く出てくれた。</p> <p>(12月)ツグミが上空を何回も飛びまわり、クスノキの実にも群がっていたこと、100羽前後のアトリがアキニレの実に来ており、カワラヒワ・アトリ・マヒワの3色が同一視野に入ったこと、カラの混群にヒガラもいるなど鳥が多く出た。種数40種は久しぶり、個体数871羽をカウントしたことは初記録など、雨の中で参加された人に多数の鳥が姿を見せた。</p>
1/13 2/10 3/10	晴 曇 晴	37 40 40	109 102 88	<p>(1月)快晴の探鳥日和、久しぶりに100名を超える参加者があった。探鳥会開始すぐにハイタカが飛び、シジュウカラ・ヤマガラ・エナガなどの留鳥、アトリ・ルリビタキ・ジョウビタキ・シロハラなどの冬鳥も次々出て、終了鳥合わせ時には万博としては珍鳥のユリカモメで締めくくった。</p> <p>(2月)万博探鳥会が85年2月スタートして満22年、第1回探鳥会で観察した鳥35種のうち、今回(40種観察)見られなかった鳥は、キンクロハジロ・コジュケイ・キジ・バン・ヒバリ・ホオジロ・カシラダカの7種でキンクロ・バン以外は草原の鳥、逆に今月見た鳥で22年前にいなかった鳥は、カワウ・アオサギ・オシドリ・ハシビロガモ・カワセミ・ヒレンジャク・ルリビタキ・ジョウビタキ・ヒガラ・ヤマガラ・アトリ・マヒワ・ウソの13種で小鳥類はすべて山野の鳥であった。22年間の万博公園の自然遷移が鳥に影響していることが良くわかる観察結果となった。</p> <p>(3月)カンヒザクラ・ハナノキ・ヤマブキ、そしてシャガなど春の花咲く中で、シロハラ・マヒワ・ジョウビタキ、そしてウソも出て冬鳥を充分楽しむことができた。日本庭園では怪我をして飛べない雌のオシドリに元気な雄が寄り添っていた。</p>

06年度月別観察種数・参加者数



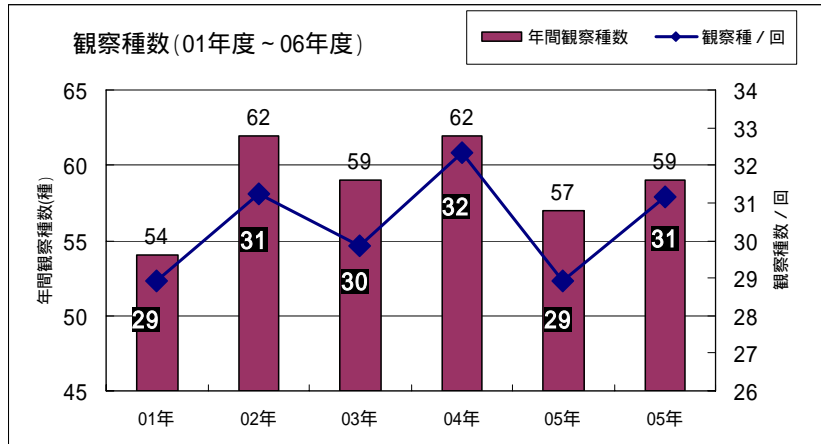
(観察集数) 昨年冬は最大 35 種であったが、今年は 40 種の月が3回もあったことから、月平均観察種数は昨年の 29種から 31種と、2種多くなった。今年は冬鳥ツグミ・シロハラが回復したこと、アトリ・マヒワ・ヒガラが観察できたことによる。一方で繁殖期5月が雨のため、22種と低レベルであった。

(参加者数) 06年度参加者は 856 771 人(前年比90%)、探鳥会1回当たり参加者数は66人 59人と昨年に続く大幅ダウンとなった。

千里ニュータウン住民の老齡化
 万博探鳥会が 22 年となりマンネリ化？
 野鳥観察に興味を持つ人が減少していること
 探鳥会でのグループ観察より、自分の好きな時、好きな所へ行って楽しむ人が多くなったこと
 などによると思われる。

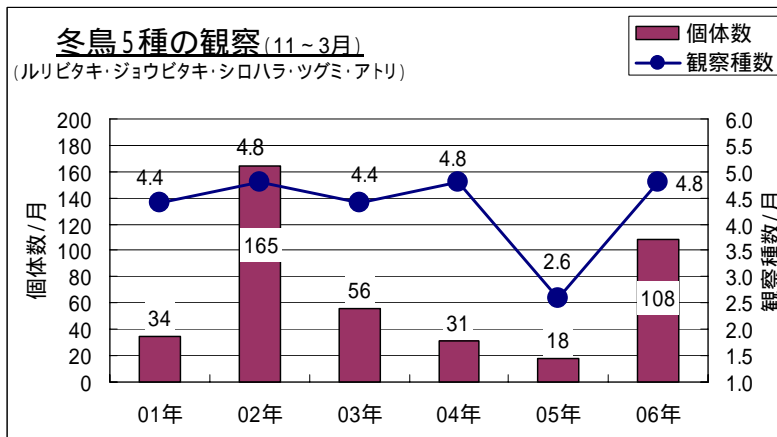
01～06年度観察実績推移

・観察種数



06年度はトータル種数・探鳥会1回当たりの種数とも、この6年間の平均値的なレベルに回復した。

・冬鳥5種の個体数・観察回数



06年の種数回復は冬鳥にあるので、11月頃渡ってきて4～5月に繁殖地へ戻る冬鳥5種(ルリビタキ・ジョウビタキ・シロハラ・ツグミ・アトリ)の、

個体数・観察回数について比較した。

昨年ほとんど姿を見せなかったツグミ・シロハラ、そしてアトリの群が良く観察できたことから、観察種数は02年・04年と同一レベル、個体数では02年に続いて多い結果となった。

この5種に入っていないが、06年はマヒワが97年以来10年ぶりに数多く滞在したこと、また、毎冬単発的な観察に止まっているヒガラが多数定住するなど冬鳥が多かった。

22 年前との比較 (85.2.16 07.2.10)

	種名	生息環境	85	07		種名	生息環境	85	07
			2	2				2	2
			16	10				16	10
1	カイツブリ	水			25	ルリビタキ	林		
2	カワウ	水			26	ジョウビタキ	林		
3	コサギ	水			27	シロハラ	林		
4	アオサギ	水			28	ツグミ	林		
5	オシドリ	水・林			29	ウグイス	林		
6	マガモ	水			30	エナガ	林		
7	カルガモ	水			31	ヒガラ	林		
8	ヒドリガモ	水			32	ヤマガラ	林		
9	ハシビロガモ	水			33	シジュウカラ	林		
10	キンクロハジロ	水			34	メジロ	林		
11	ハイタカ	林			35	ホオジロ	草		
12	コジュケイ	草			36	カシラダカ	草		
13	キジ	草			37	アオジ	草		
14	バン	水			38	アトリ	林		
15	キジバト	林			39	カワラヒワ	草		
16	カワセミ	水			40	マヒワ	林		
17	コゲラ	林			41	ウソ	林		
18	ヒバリ	草			42	イカル	林		
19	キセキレイ	水			43	シメ	林		
20	ハクセキレイ	水			44	スズメ	草		
21	セグロセキレイ	水			45	ムクドリ	草		
22	ヒヨドリ	林			46	ハシボソガラス	林		
23	モズ	草			47	ハシブトガラス	林		
24	ヒレンジャク	林			種数計			34	40

第 1 回目の万博探鳥会は 22 年前の 85.2.16 に実施したが、その時観察した鳥と最近 07.2.10 に観察した鳥を比較した。85 年観察できた鳥で 07 年観察できなかった鳥 7 種のうち、キンクロハジロ・バンを除く 5 種が草原の鳥、逆に 85 年観察できず 07 年観察できた 13 種のうち、水辺の鳥を除く小鳥類 8 種は、すべて林の鳥であった。

このことは万博公園の林の樹木が生長し、85 年には木々の間にあった草はらが、木々の生長 = 自然遷移により無くなったことを証明しているように思われる。

以上